

令和2年度 学校評価報告書

令和3年3月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道室蘭清水丘高等学校長
池 亀 貞 則

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

1 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> (1) 礼節を重んじ、豊かな情操を育む (2) 意欲的な取組を重んじ、主体性を育む (3) 健全な心身を重んじ、強い忍耐力を育む
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> (1) コロナ禍での取組から、これまで以上に地域・家庭との連携に制限があった。 (2) 学校行事が開催できないことで、保護者間の繋がりもまた引き継がれていない。新たな取り組みの模索が急務。 	<p>コロナ禍における清水丘の取組に一定の理解を頂きながらも、ICTの充実や活用について、実際の教育場で速やかに普及させる必要がある。また、清水丘の魅力进行宣传する取組が必要である。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 町内会活動への参加など、地域と連携した取組の充実を図る。 (2) ホームページについて、運用方法を見直し、更新と情報発信の工夫に引き続き努める。 (3) PTA活動について、コロナ禍による学校祭等の新たな取組を考慮した活動内容の精選に努める。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 臨時休業期間中の生徒の学力・学習状況の把握、および、学校再開後の学力・学習状況の把握、個人差の対応に苦慮した。 (2) 1年次は高校生活に慣れるまでに時間を要すると同時に仲間や部活動の人間関係を構築するにも例年以上の苦労を強いられた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) コロナ禍とは言え授業の一定レベル以上の補償が求められている。保護者、生徒、教員の三者からの要望を受け、具体的な授業改善の取組が必要である。 (2) Online授業について、本校の実用化に向けた取組が急務である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒一人ひとりの学習状況や進路志望を的確に把握し、学習意欲を喚起するよう、指導方法の改善に努める。 (2) ICT機器の授業での活用ができるような研修を行う。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) いじめに係る未然防止の取組や発生時の対応等について、保護者から「過剰な対応だ」、「小さいことで大袈裟にし過ぎている」という意見が散見された。 (2) 頭髪や服装の指導について、社会情勢に合わせた規則の改定や、指導の意義、改善過程での保護者への丁寧な説明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自分で考えて行動させる指導が必要である。 (2) 頭髪指導は点検方法に問題がないか、学校として検討が必要である。 (3) コロナ禍により、心の問題を抱えている生徒の割合が増えている。対応が必要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) いじめの指導に係る未然防止の取組や発生後の対応について、ホームページや保護者懇談を利用し、家庭や地域に発信する。 (2) 頭髪や服装の指導について、改善を図りながら、指導の意義についての生徒や保護者の理解に努める。 	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
進路指導	<p>(1) 保護者、生徒からの評価は概ね良好である。コロナ禍を利用して生徒の進路希望に合わせた計画的、系統的な指導することができた。</p> <p>(2) 保護者から、就職・専門学校希望者に対してもう一步踏み込んだ指導や配慮を要望されている。</p>	<p>大学によってはオンラインで面接を行うところも出てきている。そのような形態への対応や活用に遅れをとることなく対処する必要がある。</p>
改善方策	<p>コロナ禍により、大学進学を成功させた生徒とそうではない生徒との差が明確になった部分は、コツコツと家庭学習の習慣があったか無かったかであった。このことから、多様な進路希望に合わせた情報提供とともに、3年間を見通した進路実現に必要な学習習慣、および、面接等の個別指導の充実を図る。</p>	